

先端領域若手研究リーダー育成拠点 (実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：山梨大学（総括責任者：前田 秀一郎）

プロジェクトの概要

テニユアトラック制度を導入して若手研究リーダー育成システムを確立し、人事制度の改革と世界的研究拠点の形成を目指す。「先端領域若手研究リーダー育成拠点」を設置し、若手研究者に本学が世界に誇る最先端の研究領域において、豊かな研究費、複数メンターによる研究指導・支援、十分な研究スペースを提供することにより若手研究リーダーを育成する。採用審査と再審査のために学外委員を含む教員審査委員会を組織し、透明性の高い人事審査を行う。テニユア・ポストを確保し、高いテニユア取得率を目指す。3年目に本制度の中間評価を行い、4年目に工学系全体に普及させる。終了時には医学系を含む大学全体の人事制度の更なる改革を進める。

(1) 評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人事養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人事養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	今後の進め方における取組
A	b	a	a	b

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

小規模大学の特徴と優れた研究環境を活かした世界的研究拠点構築の役割を継続的に果たす次世代研究拠点の担い手となる若手人材育成サイクルの構築を目指しており、テニユア像を「成熟型拠点展開（機関の牽引役の“種”）」と「次世代拠点創生（機関の牽引役の“核”）」の二つの特徴的な人材育成ステップに対応付けて明確化し、目標に従った公募を実施していることは評価できる。また、計画通りにテニユアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）を採用し、今後の自主経費による採用においても、既に公募の準備が進められており、育成環境も十分に整備され、アウトリーチ活動も活発であることは評価できる。

- ・ **国際公募・選考・業績評価**：募集分野の見直しで国際公募への応募者数が少ない点を改善し、女性研究員の採用につなげるなど、今後の国際公募で女性研究者の採用へ向けた改善が必要である。
- ・ **制度設計に基づく実施内容・実績**：主メンターに加え異なる研究領域からのサブメンターと先駆者メンターにより TT 若手を支援する体制を構築している点、また、国際サイエンスカフェを継続的に開催して、TT 若手を自らのネットワーク構築と企画のために参加させる点などは評価できるが、更に TT 若手が国際的に活躍する仕組みの構築を期待する
- ・ **制度設計に対するマネジメント**：既に外部評価委員会を設置し、学長のリーダーシップが発揮され PDCA サイクルを活用している。今後予定されているテニユアトラック制の外部評価を生かし、更なる制度改善につなげることを期待する。
- ・ **今後の進め方における取組**：テニユアトラック制の全学展開を進めているが、大学全体での議論に基づく制度設計を早期に進め、全学的なテニユアトラック規程の整備など具体的施策の推進を行う必要がある。